



加古川公共職業安定所
てらだ かずひろ
 所長 寺田 和弘 さん

地域に根付いた寄り添う ハローワークとして

依然、厳しい雇用状況が続くなか、本年4月に所長として着任された寺田和弘さんに管内の求人・求職状況やハローワークの上手な活用方法について伺いました。

社会経済活動の再開

最近の経済情勢は、物価上昇の影響を受けつつも、個人の消費は緩やかに回復しているとされていますが、雇用失業情勢は、持ち直しの動きにやや弱さがみられることや、依然として原材料や資材の高騰などで収益が圧迫されることにより、求人を控えているという声も一部では聞かれます。実際に直近の数値として、令和6年3月の加古川所管内の有効求人倍率は0.80と、

求職者が求人を上回る状況となっておりますが、その一方で、人材不足のために思い切った事業展開ができないといった事案も聞かれるところですが、こうした中、ハローワークとしては

「すべての人が意欲・能力を生かして活躍できる環境の整備」を重点課題としており、子育て中の女性等や、障害者、高齢者、外国人求職者等の多様な人材の活躍促進のための各種施策を発信・推進しています。

求人充足サービスの充実に向けて

ハローワークでは、全国に544所とオンラインネットワークを結んだ人材紹介支援のほか、加古川市などの自治体と連携した地域密着型の就職支援に関する施策を実施しています。

具体的には、①求人票の受理において、応募者により分かりやすい記載や求人条件の見直しをご提案しています。②採用後のミスマッチ解消のために、事業所説明会（または見学会）&希望者面接会の開催をしています。③業界団体（医療・介護・保育・建設・警備・運輸等）の方をハローワークにお招きして、求職者向け説明会を行い、求人応募にあたっての興味や関心を高めていただくための取組を実施してい

ます。

また、事業所向けには従業員の採用や能力開発に関する各種助成金等の活用案内など、ハローワーク職員による事業所訪問も積極的に行いながら、求人充足に向けたコンサルタントとして、対応していきたいと考えています。

地域に根付いた寄り添える機関として

私は、前任地は主に阪神地域で勤務しており、加古川での着任は初めてです。プライベートでは、何度か訪れていましたが、着任を機に「もっと加古川のことを深く知りたい・力になりたい」と思い、日々、業務と情報収集にあたっています。

少子化や人手不足など、構造的な問題がある中で、求人者・求職者双方の希望に添えるよう、利用してよかったですと思えるようなハローワークを目指しています。その上で、加古川の皆様のお役に立てるよう『ご来所者・ご相談者の皆様を笑顔で迎え、笑顔で帰っていただく』という方針で、職員一同業務を行っています。

これからも、地域への情報発信を進めながら、1件1件の求人を大切に、雇用経済での裏方・潤滑油としての役割を果たしてまいります。